

## 会 議 録

### 1 会議名

令和7年度 第1回 上越市博物館協議会

### 2 議題

#### 【歴史博物館部会】

- ・令和6年度事業実施状況（報告）（公開）
- ・令和8年度事業計画（案）（非公開）

#### 【水族博物館部会】

- ・令和6年度事業実施状況（報告）（公開）
- ・令和8年度事業計画（案）（非公開）

### 3 開催日時

令和7年10月2日（木）午後1時30分から

### 4 開催場所

教育プラザ 研修棟 大会議室ほか

### 5 傍聴人の数

なし

### 6 非公開の理由

上越市審議会等の会議の公開に関する条例第7条第4号（意思形成過程情報）に該当するため

### 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名

#### (1) 委員

五百川委員長、武石委員、小原委員、保坂委員、渡辺委員、増田委員、品田委員、馬場委員

#### (2) 事務局

- ・早川教育長
- ・教育委員会事務局 笹川参事
- ・文化行政課 新保課長
- ・歴史博物館 花岡館長、平野副館長、荒川係長
- ・教育総務課 小林副課長、古澤係長、横山主事
- ・水族博物館 和田館長、野々山副館長、鈴木リーダー

### 8 委員の選出と所属部会の決定

- ・委員長：五百川委員
- ・副委員長：浅倉委員

- ・歴史博物館部会：武石委員、小原委員、保坂委員、浅倉委員、渡辺委員
- ・水族博物館部会：五百川委員、永井委員、増田委員、品田委員、馬場委員

## 9 発言の内容

### (1) 歴史博物館部会

令和6年度事業実施状況（報告）（公開）

#### 【歴史博物館資料 1～9 ページに基づき説明】

（渡辺委員） 特集展示「高田盲学校資料展」を見られた方が高田ゴゼミュージアムにも沢山お越しいただくなど、博物館から周遊の良い流れが出来ていた。特集展示では、紙にかかれた年表が壁一面に展示されていたが、展示後はどこで保管しているのか。盲学校の教材など良い資料が多く展示されていたが、実際に触れる資料はないのか。レプリカは作れるのか。

（荒川係長） 特集展示で出展した高田盲学校関係の資料は、福祉交流プラザ内の高田盲学校資料室で收藏されているものを展示した。紙で書かれた長い年表も、普段は高田盲学校資料室の展示資料として收藏されている。

（花岡館長） 触れる資料の展示についても検討したが、どの資料も1点物の貴重な資料ばかりのため断念した。今回の特集展示は予算をかけない展示でもあり、レプリカの作製については準備が整わなかった。現在の福祉交流プラザでの展示についても、ずっと資料そのものを展示し続けるわけにはいかないなので、保存のため何らかの方法を考えたい。

（武石副部会長） 博物館から市内施設への周遊については、何か考えがあったのか。

（花岡館長） 今回の特集展示については、初めから周遊を計画したものではなかったが、高田盲学校と高田瞽女がテーマとして合致したなかで生まれた良い流れだった。今年の夏は戦後80年をテーマにした企画展を開催しているが、同時期に新潟県立歴史博物館でも戦争展を開催していたので、両館の展示を観覧する方も多かったと感じている。今後も周年事業など重なるテーマがあれば、他館と連携しながらPRしていきたい。

（渡辺委員） 特集展示では予算がないということでチラシを作成されていなかったのは残念だった。チラシがなくてもSNSを活用すると良いPRになると思う。良い企画をしているので、館独自のSNSもあれば良いと思うが。

（花岡館長） 上越市公式のSNSを活用して発信している。人員的に余裕がないので、館独自

の SNS 発信については今のところ考えていない。

(小原委員) 高田盲学校の資料については、新潟県立歴史博物館でレプリカ資料の展示があるので、周遊など連携していければ良いと思う。今年も戦後 80 年の企画展では、上越から貴重な資料を沢山お貸出しいただくなど大変お世話になった。展覧会は大変好評で、両館の連携の賜物だと思う。令和 6 年度の入館者数についても、大変素晴らしい実績だと思う。当館では令和 5 年度に上杉景勝展を開催したこともあってか、令和 6 年度は前年度割れの実績であった。入館者増への特別な取り組みがあれば教えてほしい。

(花岡館長) 令和 6 年度の入館者数実績については、コロナ禍からの回復とともに開催した展覧会のテーマが好評だったことが増加の要因だと感じている。外国人の方が沢山来られているというよりは、京都や大阪など外国人が多く来る観光地を避けて日本の方が多く来られている印象である。高田城址公園が賑わいを取り戻してきているので、その影響もあったと思う。

(平野副館長) 博物館の立地が良いということに加えて、上越市の涼み処として周知されていることも影響があったと思う。

(小原委員) 令和 7 年度の入館者状況はどうか。

(花岡館長) 今年は夏に国宝太刀「山鳥毛」の展示もあったので比較が難しい。山鳥毛で来館された方の人数が上乘せされて、令和 6 年度よりも夏場の入館者数は増えている。

(武石副部会長) 企画展Ⅰ「徳川四天王榊原康政の系譜」では、大河ドラマ「どうする家康」との相乗効果はあったのか。また、展覧会ごとに入館者の目標値が設定されているが、博物館に入館した人全体の数字とのことなので、実際に展覧会を観覧する人の目標値もあわせて示してもらえると、展覧会の成果について明確に分かるのではないか。上越市と同じ規模の他市の博物館の入館者数との比較などについても教えてもらう機会があれば良いなと思う。

(花岡館長) 目標入館者数については、資料が煩雑にならないように、展覧会観覧者の目標値は示していないが、予算を組む際に目安となる有料観覧者・無料観覧者の数字は算出している。上越市と同規模の他市の博物館との比較については改めてお示しする機会を作りたい。

(保坂委員) 出前講座の件数は増えているのか。出前講座から博物館へのリピーターが増えることもあるか。

- (花岡館長) 出前講座の件数は例年 20 件ほどで増加しているわけではない。出前講座を聞いた方や団体が翌年博物館に実際に来て見学するという流れは出来ている。
- (小原委員) 令和 6 年度の事業については、展覧会・教育普及ともに立派な実績だったと思うが、現在の博物館の課題があれば教えてほしい。
- (花岡館長) 今回ご報告したとおり、外向けに行う展覧会などの事業については上手くいつているところだが、バックヤードについては課題が多い。博物館で収蔵する資料については未整理のものがまだ沢山残っており、資料のデジタル化についても進んでいない状況である。現状は展覧会をするための仕事を中心になっているが、先に資料整理や調査研究を行って、その成果を展覧会として発信していく博物館本来の流れに戻していきたい。
- (武石副部会長) 資料の受け入れについては増加傾向にあるのか、それとも横ばいなのか。
- (花岡館長) 寄贈される資料については、年によって多少の増減はあるが、平均していけば横ばいである。民俗資料でも地元で作られた生活の道具などは収集していくが、全国的に流通しているような製品などの受け入れは抑制傾向にある。

## (2) 水族博物館部会

令和 6 年度事業実施状況（報告）（公開）

### 【水族博物館資料 1～13 ページに基づき説明】

- (増田委員) 入館者数のうち年間パスポートを利用し、来園されている方の割合を教えてください。
- (和田館長) 月平均 3000 人、年間 3 万人超の方が年間パスポートを利用している。また、年間で 5000 人程度のパスポートを発行している。
- (品田委員) 多くの来場者にお越しいただいている上、イベントの多さに驚いた。常設展示や企画展示のおおよその参加者数を教えていただきたい。
- (和田館長) 展示の参加者数について、夜間特別開館「ペンギンナイト」では、1 日平均 100 人の参加があったが、夜間の特別開館は女性や子どもの参加が少なく、集客を増やす工夫を考えていきたい。今月末には、1 年で最も参加者数の多い「ハロウィンの夜間開館」を控えており、毎年約 400 人の方が参加している。
- (品田委員) 学校団体の利用状況を教えていただきたい。
- (和田館長) 横ばいからやや下降傾向となっている。妙高市や糸魚川市といった近隣自治体のみならず、近県からも集客がある状況にある。

- (品田委員) 昨今、気候変動・海水温上昇に伴い、生き物の生息に対して大きな影響を及ぼしている。サクラダンゴウオなどの研究をする中で、暖流の影響は感じるか。
- (鈴木リーダー) 少なからず影響があると感じている。特に地元漁場従事者と会話する中で、旬の魚が上がらない、時期が変わっているなどの影響を聞いている。全国的なニュースでも取り上げられているが、上越市だけではなく、全国的に気候変動・海水温上昇の影響を受けているのだと感じる。
- (品田委員) 淡水魚への影響はあるか。
- (鈴木リーダー) 猛暑・豪雨により、河川や池の環境に影響を及ぼし、数が少なくなってきていると感じる。
- (品田委員) サクラダンゴウオはいつ頃採れるのか教えていただきたい。
- (鈴木リーダー) 深海から浅瀬に上がってくる5、6月の産卵シーズンに獲得している。主に海藻に付着しており、漁港付近で夜間に捕れることが多い。
- (馬場委員) 様々な漫画・アニメーション等とのコラボ企画は、八景島グループとしての取り組みなのか。
- (和田館長) うみがたり独自の取り組みや八景島グループとしての取り組みなど様々である。具体的には、クレヨンしんちゃんコラボに関しては、上越市独自の取り組みであり、ハイキューコラボに関しては、八景島グループ持ち回りの取り組みである。
- (五百川委員) アクアポニックスの取組は単年度か。
- (鈴木リーダー) 複数年継続で海洋高校と取組を行っている。一種類の植物の栽培から、現在は複数の植物を育てることに挑戦している。鯉の糞を肥料とし、海洋高校の生徒と共に、苗の植え付けや、収穫した野菜を使用した飼育動物への給餌、お客様に向けたレクチャー等に取り組んでいる。
- (五百川委員) どれほどの量が収穫できたのか教えていただきたい。
- (鈴木リーダー) 定量的には把握が困難だが、そこまで多くはない。20株程度育てている。
- (増田委員) 水中の栄養量が一定程度ないと育成が困難。水の「きれいさ」や「栄養量の豊富さ」の目安になる電気伝導度の数値がEC1000以上あるとかなりの量が栽培できる。バジルを水耕栽培し、うみがたりのレストランでバジルソースとして提供するなど活用していただいている。

教育総務課 企画係 水族博物館担当

TEL : 025-545-9252

E-mail : ks-aqua@city.joetsu.lg.jp

## 1 1 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。